



# PRIMERGY RX200 S6

はじめにお読みください



## 作業を始める前に

### 梱包物を確認する

『梱包物一覧』をご覧になり、梱包物がすべてそろっているか確認してください。カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合は、添付の『保証書』(『構成品一覧』が添付されている場合は『構成品一覧』)をご確認ください。

### 『安全上の注意およびその他の重要情報』を確認する

添付の『安全上の注意およびその他の重要情報』には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に取り扱ってください。また、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

### サポート&サービス

PRIMERGYに関する最新の情報や、製品・サービスに関するお問い合わせ、修理などにつきましては、添付の『サポート&サービス』をご覧ください。

## 使用許諾契約書

富士通株式会社(以下弊社といいます)では、本サーバ(インストール、もしくは添付されているソフトウェア(以下本ソフトウェアといいます))をご使用いただく権利をお客様に對して許諾するにあたり、下記ソフトウェアの使用条件にご同意いただけますことを使用の条件とさせていただいております。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約に同意いたしましたので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

### ソフトウェアの使用条件

#### 1. 本ソフトウェアの使用および著作権

お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。

#### 2. パックアップ

お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用(パックアップ)媒体を作成することができます。

#### 3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み

本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。

#### 4. 複製

(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許してない限り、予備用(パックアップ)媒体以外には複製は行わないでください。

(2) 前項により、お客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。

#### 5. 第三者への譲渡

お客様が本ソフトウェア(本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用パックアップ媒体を含みます)を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。

#### 6. 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

#### 7. 保証の範囲

(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関しても弊社が必要と判断した情報を提供いたします。

また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥(破損等)等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。

(2) 弊社は、前項に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害(過失利益、事業の中止、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします)に関しても、一切責任を負いません。弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

(3) 本ソフトウェアが開発元の第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

#### 8. ハイセイフティ

本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

#### 記

原子力制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

## サーバ本体のラックへの搭載

### ● 用意するもの

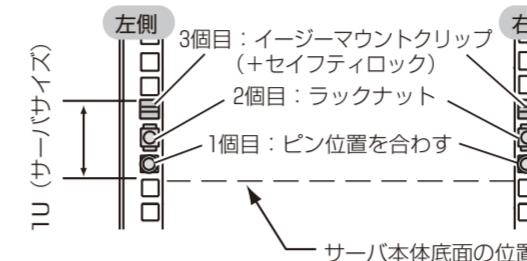
事前に次の添付品を準備しておいてください。

サーバ本体に添付	ラックに添付
ラックナット ×2	ラックナット治具 ×1
セイフティロック ×2	イージーマウントクリップ アンロック治具 ×1

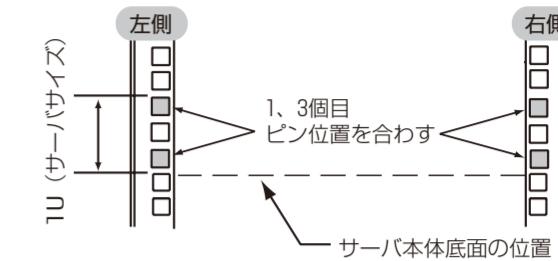
### 1. スライドレールとラックナットの取り付け位置を決めます。

スライドレールは、ラック前面側 - ラック背面側の支柱に取り付けます。ラックナットは、ラック前面側の支柱に取り付けます。

#### 【ラック前面側の支柱】



#### 【ラック背面側の支柱】



### 2. スライドレールの左右を区別します。

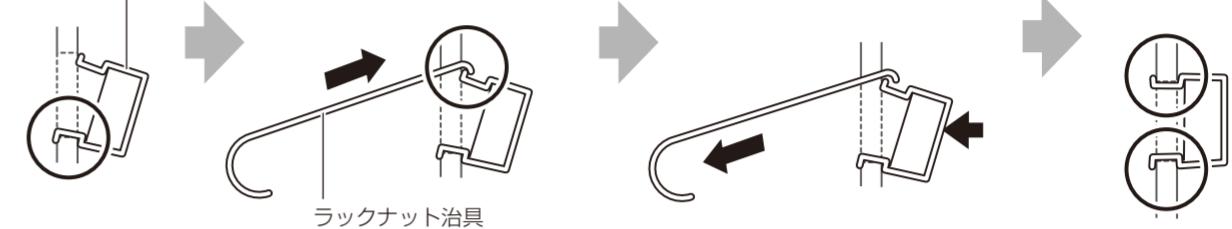
スライドレールには、左用と右用があります。

ラック支柱に向かって左側に取り付けるレールには「LEFT」、右側に取り付けるレールには「RIGHT」の表示があります。

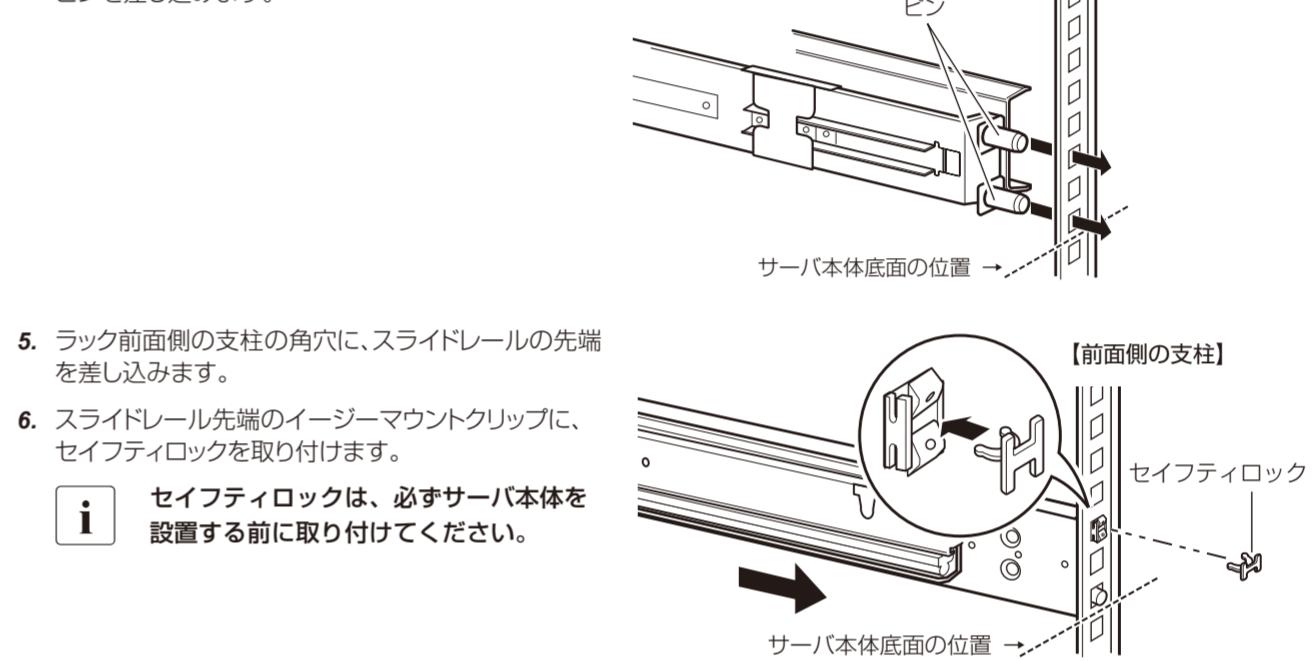
### 3. ラック前面側の支柱の角穴に、ラックナットを取り付けます。

ラックナット治具を使って、角穴の内側からツメを上下に引っ掛け取り付けてください。

#### ラックナット



### 4. ラック背面側の支柱の角穴に、スライドレール後部のピンを差し込みます。



### 5. ラック前面側の支柱の角穴に、スライドレールの先端を差し込みます。

### 6. スライドレール先端のイージーマウントクリップに、セイフティロックを取り付けます。

**i** セイフティロックは、必ずサーバ本体を設置する前に取り付けてください。

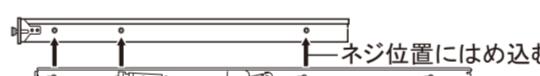
### ラックからスライドレールを取り外す場合

1. イージーマウントクリップ内側の上下の穴に、イージーマウントクリップ アンロック治具の先端部分を差し込み、つまむように上下から押して、ロックを解除します。
2. スライドレールを支えながら後方へ押し込み、ラック支柱から取り外します。

**i** イージーマウントクリップ アンロック治具は、失くさないようにクリアファイルなどに入れて大切に保管してください。

### 7. インナーレールの取り付け穴に、サーバ本体側面のネジ位置を合わせてはめ込みます。

#### 【本体右側面の例】

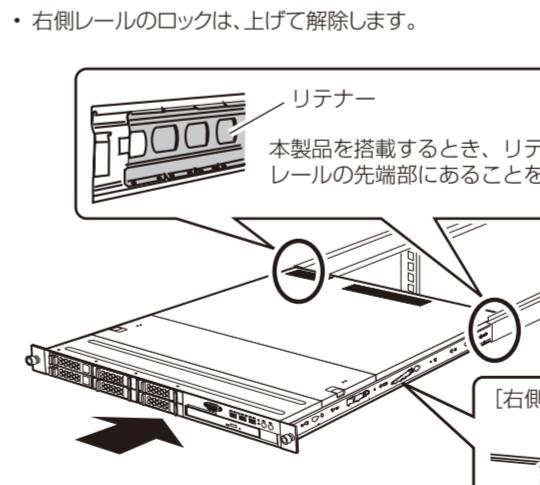


### 8. インナーレールを後方にスライドさせて、サーバ本体に固定します。



### 9. スライドレール両側のロックを解除しながら、サーバ本体を後方へゆっくりとスライドします。

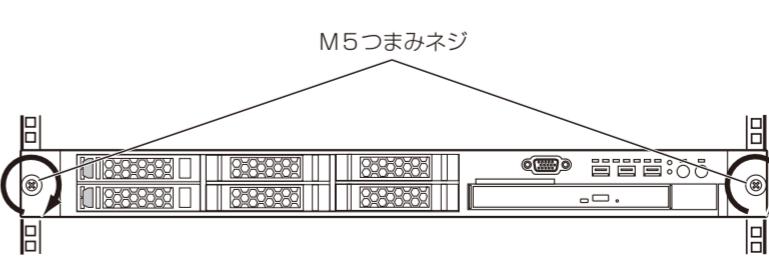
- ・左側レールのロックは、下げるで解除します。
- ・右側レールのロックは、上げて解除します。



### 10. サーバ本体をラックから数回出し入れして、左右のロック機能、およびスライドの動作に問題がないことを確認します。

**i** サーバ本体をラックに出し入れするときは、必ずフロントパネルのM5つまみネジを持ってください。M5つまみネジ以外の部分を持つと、指や衣服が挟まれて、怪我をするおそれがあります。

### 11. M5つまみネジ(2本)で、サーバ本体をラック支柱に固定します。



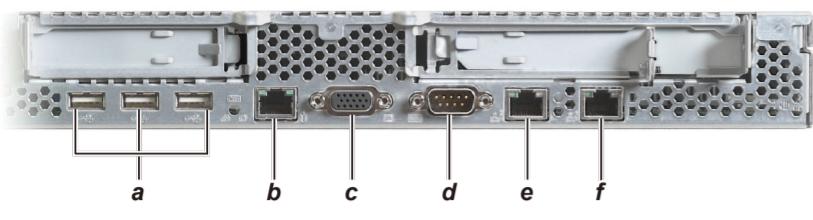
サーバ本体や周辺装置が搭載されていない場所には、ラックに添付のブランクパネルを取り付けてください。

## 外部装置用のコネクタ

外部装置用のコネクタは、サーバ本体の前面と背面にあります。オプション品やインストールされている拡張カードによっては、他のコネクタもついています。標準コネクタは記号で示され、色で分類されているものもあります。

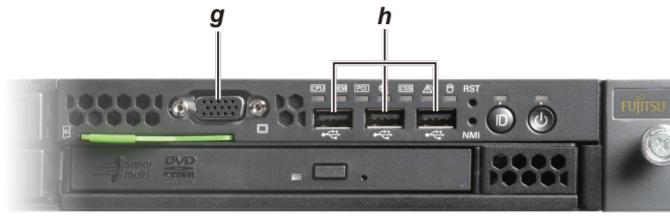
**i** 接続する装置によっては、別途、専用のソフトウェア（例：ドライバなど）が必要になります。  
詳しくは、各装置の取扱説明書をご覧ください。

### ● サーバ背面



- a USBコネクタ(x3)
- b Management LANコネクタ
- c ビデオコネクタ
- d シリアルコネクタ(COM)
- e システムLANコネクタ(LAN2)
- f Shared LANコネクタ(LAN1)

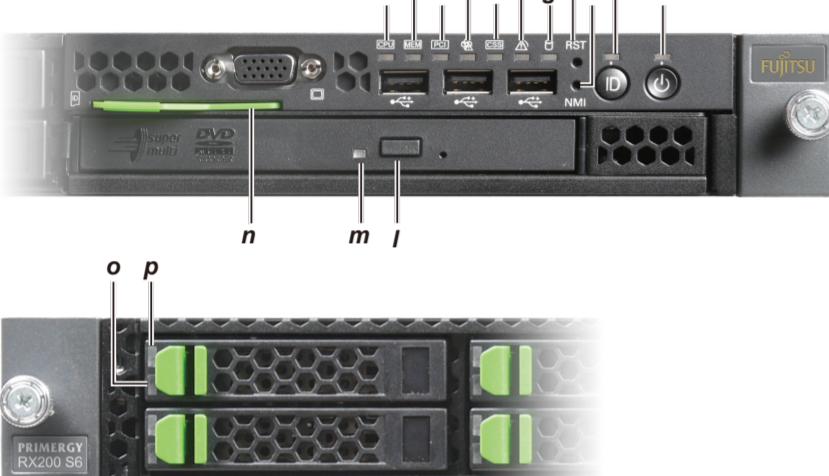
### ● サーバ前面



- g ビデオコネクタ
- h USBコネクタ(x3)

## 各部名称とランプ

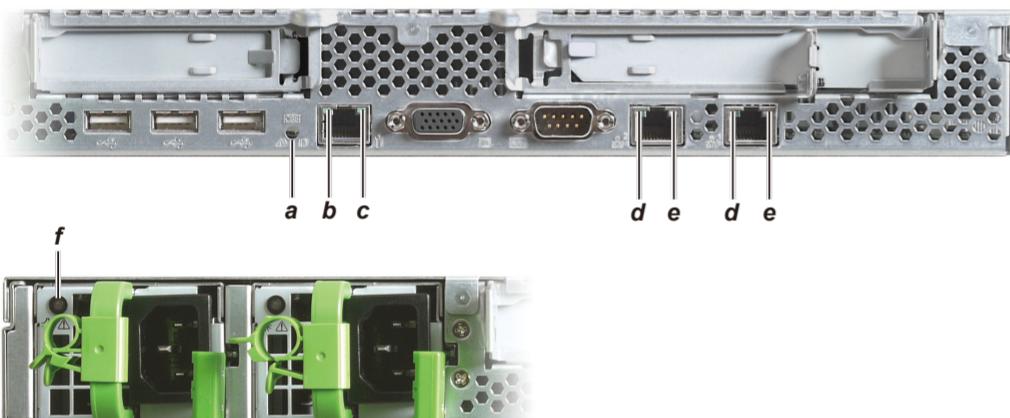
### ● サーバ前面



- a CPUエラー表示ランプ
- b メモリエラー表示ランプ
- c PCIエラー表示ランプ
- d ファンエラー表示ランプ
- e CSSランプ
- f 前面保守ランプ
- g ハードディスクアクセス表示ランプ
- h リセットボタン
- i 保守用ボタン
- j システム識別灯／IDボタン
- k 電源表示ランプ／電源ボタン
- l 光ディスク取り出しボタン
- m 光ディスクアクセスランプ
- n IDカード
- o ハードディスクアクセス表示ランプ
- p ハードディスク故障ランプ

**i** IDカードには、部品名（型名）とシリアル番号が記入されています。

### ● サーバ背面



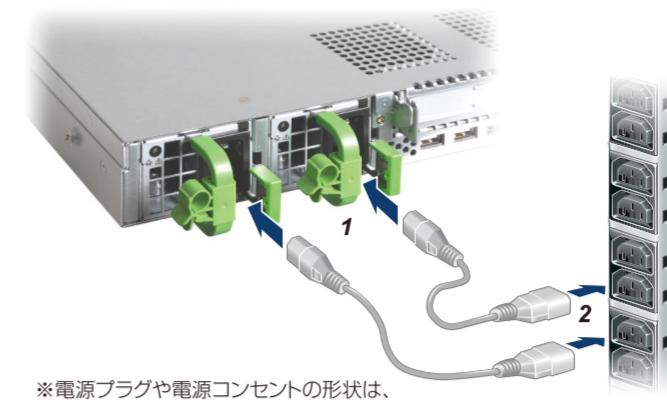
- a 背面保守ランプ/CSSランプ／システム識別灯
- b LANアクセス表示ランプ(Management LAN)
- c LAN転送速度表示ランプ(Management LAN)

- d LANアクセス表示ランプ(システムLAN／Shared LAN)
- e LAN転送速度表示ランプ(システムLAN／Shared LAN)
- f ホットプラグ電源ユニットランプ

## 電源ケーブルの接続

- i** 本サーバの基本構成では、450W、または770Wのホットプラグ電源ユニットが1台搭載されます。ホットプラグ電源ユニットは、もう1台搭載することができ、同じタイプのホットプラグ電源ユニットを2台搭載することで、冗長電源機能が有効になります。
- 主電源の電圧は、100V～127V、または200V～240Vの範囲でサーバが自動調整します。

ホットプラグ電源ユニットを2台搭載している場合、サーバ本体の電源は冗長構成になります。この場合は、各電源ユニットを別々の電源系統へ接続します。



1. 電源ケーブルを、サーバ本体背面の電源コネクタに接続します。
2. 主電源プラグを、ラックの電源タップに接続します。



3. ケーブルクランプを矢印方向に開きます。
4. 電源ケーブルをケーブルクランプに通します。
5. ケーブルクランプを止まる位置まで閉じて、電源ケーブルを固定します。

## 内蔵ハードディスクユニットの取り付け

- i** 本サーバには、2.5インチタイプの内蔵ハードディスクユニットを、最大で6台または8台まで取り付けることができます。

1. 内蔵ハードディスクユニットのロックを解除します。  
緑色のタブを押しながら(①)、ハンドルを矢印方向に開きます(②)。



2. 内蔵ハードディスクユニットを、突き当たるまでゆっくりと差し込みます。
3. ハンドルを矢印方向に戻して固定します。



## OSを新規にインストールする

Windows、またはLinuxを新規にインストールする場合は、ServerView Installation Manager(SVIM)を使用します。詳しくは、「ServerView Suite ServerView Installation Manager」をご覧ください。なお、Linuxの場合は、SVIMを使用する前にインストールDVDを作成するなど、準備が必要です。

VMwareを新規にインストールする場合は、SVIMは使用しません。詳しくは、VMwareの「ソフトウェア説明書」をご覧ください。

ServerView Suiteの最新情報は、「PRIMERGY ServerView Suite DVD」ページ(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/products/note/svsvdvd/>)にて提供しております。必ずご覧ください。

### □ Linuxインストール代行サービスバンドルタイプをご購入の場合

あらかじめインストール済みです。ご購入時のrootパスワード（管理者パスワード）は、**JW%m9zPn** です。

- i** セキュリティのため、パスワードは必ず変更してください。

### □ Windowsの新規インストール

SVIMでインストールを行います。

### □ Linuxの新規インストール

#### 1 インストールDVDを作成します。

インストールDVDは、RHN（Red Hat Network）からダウンロードして作成します。

- i** RHNへの登録については、「Red Hat Network、サブスクリプションの登録方法」(<http://www.redhat.co.jp/FAQ/regist.html>)をご覧ください。

1. RHNにログインします。
2. ISOイメージの公開サイトページを開きます。  
インストールするディストリビューションを選択してください。
3. Binary DiscのISOイメージをダウンロードします。  
RHNの画面に、MD5チェックサムが表示されています。  
ダウンロードしたISOイメージのチェックサムが正しいか確認してください。
4. ISOイメージから、インストールDVDを作成します。

### □ VMwareの新規インストール

インストールメディアは、ヴィエムウェア株式会社のサイト(<http://www.vmware.com/jp/>)よりダウンロードしてください。

- i** ダウンロードを行うためには、ライセンス取得が必要となります。詳しくは、「お客様登録とライセンス取得のご案内」\*をご覧ください。また、製品をご使用になる前にSupportDeskへの登録をお願いします。

\* VMwareバンドルタイプをご購入のお客様は、同梱されています。それ以外のお客様は、ソフトウェア製品をご購入いただく必要があります。

VMwareのインストール方法、および使用時に留意すべき事項については、VMwareの「ソフトウェア説明書」(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/vmware/>)をご覧ください。